

授業科目 中枢神経系評価学 II

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
星 孝		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 中枢神経疾患の病態を理解し、必要な検査項目を列挙、選択できるための基礎知識を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例を観察し、必要な検査項目を理解し、その意義の検討し選択できる。 また選択理由を言葉で明確に説明できる 2. 不随意運動や異常動作の実際を確認し説明できる 3. 正常動作と異常動作の違いを説明できる 4. 全身管理の判断に必要な評価（意識度、血圧の管理、薬剤、呼吸管理、循環動態管理など）を理解し説明できる。 5. 理学療法の実施に及び背景にある脳循環やオートレギュレーション、座位耐性チェック、離床基準を説明できる。 6. 脳血管の走行や名称を述べることができる。 7. 脳の機能局在や、障害される症状を述べることができる。 8. 脳卒中症例への運動負荷の考え方を説明できる。 9. クループワーク活動を自主的に取り組むことができる。 					
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	脳卒中スクリーニングの各評価項目	1, 4, 9	講義、グループでの学習や検討、担当：星 孝		
2	筋緊張の評価	1, 2, 3, 9	講義、グループでの学習や検討、担当：星 孝		
3	急性期リハビリテーションの展開に必要な評価	1, 4, 9	講義、グループでの学習や検討、担当：星 孝		
4	リスク管理を行うための脳循環系基礎	5, 6, 9	講義、グループでの学習や検討、担当：星 孝		
5	脳 CT と機能局在	6, 7	講義、担当：星 孝		
6	軽度脳卒中ケースへの姿勢負荷、運動負荷について	8, 9	講義、グループでの学習や検討、担当：星 孝		
7	加療時期に応じた理学療法評価	1, 4, 8, 9	講義、グループでの学習や検討、担当：星 孝		
8	中枢神経疾患の評価に対する検討	1, 9	講義、グループでの学習や検討、担当：星 孝		
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	シンプル理学療法学テキスト 理学療法評価学テキスト	細田 多穂		2010・5,700円＋税	
	病気がみえる Vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所(編)	株式会社メ ディックメディア	2011・3,800円＋税	
参考書	ベットサイドの神経の診かた 17版	田崎 義明	南山堂	2010・7,560円	
	リハビリテーション リスク管理ハンドブック 改訂第2版	亀田メディカルセンター	株式会社メジカル ビュー社	2012・4,410円	
その他の資料					
【評価方法】 単位修得規程の出席条件に満たないものは、本科目試験の受験は不可とする。 期末試験の結果を主とし、さらに授業で課すレポートの提出やその内容を加味した評価を行う。		【履修上の留意点】			